

水谷謙治教授の略歴および業績

1934年4月4日生

学 歴

- 1959年3月 愛知大学法経学部経済学科卒業
1961年3月 立教大学経済学研究科（経済学専攻）修士課程修了
1964年3月 立教大学経済学研究科（経済学専攻）博士課程単位取得退学

職 歴

- 1962年4月 立教大学経済学部助手
1965年4月 立教大学経済学部専任講師
1967年4月 立教大学経済学部助教授
1975年4月 立教大学経済学部教授
2000年3月 立教大学定年退職
7月 立教大学名誉教授

学 位

- 1987年3月 経済学博士（立教大学）

学会ならびに社会における活動

経済理論学会

経済学史学会

1987年度青井奨学会研究助成（社会的流通コストの研究代表）

研究業績

単 著

- 『労働疎外とマルクス経済学』青木書店，1974年
『再生産論』有斐閣，1985年
『新経済原論』有斐閣，1994年

共 著

『経済原論』（大木啓次・水谷謙治共著）有斐閣，1986年

論 文（以下すべて単著論文）

「価値の生産価格への転形について」『立教経済学研究』第17巻第4号，1964年

「一国資本主義分析の基本的意味について」『立教経済学研究』第18巻第3号，1964年

「再生産論（『資本論』・二巻三篇）の成立について（一）」『立教経済学研究』第20巻第1号，
1966年

「再生産論（『資本論』・二巻三篇）の成立について（二）」『立教経済学研究』第20巻第2号，
1966年

「再生産論（『資本論』・二巻三篇）の成立について（完）」『立教経済学研究』第20巻第3号，
1966年

「『経済学批判要綱』における資本の流通過程（上）」『立教経済学研究』第23巻第2号，1969年

「『経済学批判要綱』における資本の流通過程（下）」『立教経済学研究』第23巻第4号，1970年

「『経済学批判要綱』における再生産論に関する諸論述の検討」『立教経済学研究』第24巻第2
号，1970年

「資本制的生産様式における「労働疎外」の考究（一）」『立教経済学研究』第25巻第2号，
1971年

「資本制的生産様式における「労働疎外」の考究（二）」『立教経済学研究』第25巻第4号，
1972年

「資本制的生産様式における「労働疎外」の考究（三）」『立教経済学研究』第26巻第1号，
1972年

「資本制的生産様式における「労働疎外」の考究（四）」『立教経済学研究』第26巻第2号，
1972年

「資本制的生産様式における「労働疎外」の考究（五）」『立教経済学研究』第26巻第3号，
1972年

「資本制的生産様式における「労働疎外」の考究（完）」『立教経済学研究』第26巻第4号，
1973年

「再生産論」の課題と意義（上）」『立教経済学研究』第29巻第3号，1975年

「再生産論」の課題と意義（下）」『立教経済学研究』第29巻第4号，1976年

「相対的過剰人口論の考究」『立教経済学研究』第32巻第3号，1978年

「生産と「消費」の矛盾（いわゆる内在的矛盾）について」『立教経済学研究』第34巻第2号，
1980年

「生産と「消費」の矛盾（いわゆる内在的矛盾）について（後編）」『立教経済学研究』第34巻

第4号, 1981年

「マルクス経済表の研究」『立教経済学研究』第35巻第4号, 1982年

「再生産論の確立過程の研究」『立教経済学研究』第38巻第2号, 1984年

「現代の「サービス」に関する基礎的・理論的考察(上)」『立教経済学研究』第43巻第3号,
1990年

「現代の「サービス」に関する基礎的・理論的考察(下)」『立教経済学研究』第45巻第1号,
1991年

「アメリカ・人材派遣業の研究」『立教経済学研究』第46巻第4号, 1993年

「アメリカ・人材派遣業の研究(続・完)」『立教経済学研究』第47巻第1号, 1993年

「物品賃貸業資本(レンタル・リース資本)の基礎的・理論的研究(上)」『立教経済学研究』
第49巻第4号, 1996年

「物品賃貸業資本(レンタル・リース資本)の基礎的・理論的研究(下)」『立教経済学研究』
第50巻第1号, 1996年

「想定座談会「経済原論(マルクス経済学)」を語る」『立教経済学研究 創刊五十巻を記念し
て』, 1997年

「サービス商品とマルクスの労働価値説」『立教経済学研究』第53巻第3号, 2000年

資料

(共著)『資本論』第二部第二草稿(「第三章」)の未公開部分について『立教経済学研究』第33
巻第1号, 1979年